

引用文献

- 足立堅一 (1998). らくらく生物統計学. 中山書店. 115-137.
- Arbuckle, J. L. (1995-2006). Amos7. 0J ユーザーズガイド. 井上哲浩訳監修. SPSS Japan Inc. pp. 489-490.
- 有田広美, 大島千佳, 小林宏光ほか (2006). 自律神経活動からみたホットパック温罨法のリラクゼーション効果-頸部と腰部の施行部位を比較して-. 日本看護研究学会雑誌, 29 (3), 254.
- 朝野熙彦, 鈴木督久, 小島隆矢 (2005). 入門 共分散構造分析の実際 (初版). 講談社サイエンティフィク. 126.
- Cherry, G. W. & Wilson, J. (1999). The treatment of ambulatory venous ulcer patients with warming therapy. *Ostomy/Wound Management*, 45 (9), 65-70.
- Cooper, H. (1998). *SYNTHESIZING RESEARCH -A Guide for Literature Review-* (3rd edition). London: SAGE Publications.
- 江上京里 (2002). 腰背部蒸しタオル温罨法ケアと交感神経活動及び快さの関連. 聖路加看護学会誌, 6 (1), 9-16.
- 江上京里 (2005). 腰背部蒸しタオル温罨法ケアと交感神経活動及び快さの関連 (第2報) 部位別皮膚温. 日本看護技術学会第4回学術集会講演集, 104.
- 江上京里 (2008). 「温罨法」の統合的文献レビュー. 日本看護技術学会誌, 7 (2), 4-11.
- Fredrickson, B. L. & Levenson, R. W. (1998) Positive emotions speed recovery from the cardiovascular sequelae of negative emotions. *Cognition and emotion*, 12, 191-220.
- Grassi, G., Seravalle, G. & Turri, C., et al. (2003). Impairment of Thermoregulatory Control of Skin Sympathetic Nerve Traffic in the Elderly. *Circulation*, 108, 729-735.
- 濱中悦子, 田中二見, 上田住江, 他 (1996). SM 筋肉内注射時の温罨法の検討 筋肉内温度血流測定結果をもとに. 日本看護学会 27 回集録成人看護Ⅱ, 92-94.
- 長谷部佳子, 中山栄純, 佐藤千史 (1999). 温罨法が就床中の生体の快適感, 体温, 皮膚血流量に及ぼす影響. 日本看護研究学会雑誌, 22 (5), 37-45.
- 早野順一郎 (2001). 心拍変動による自律神経機能解析. 井上博編. 循環器疾患と自律神経機能. 71-109. 医学書院.

- Henderson, V. (1969). 看護の基本となるもの. 湯楨ます・小玉香津子訳 (1995). 日本看護協会出版会. 46-47.
- Hildebrandt, G., Moser, M. & Lehofer, M. (1998). 時間生物学と時間医学. 入間カイ (2006). 東京コア.
- 菱沼典子 (1997a). 排便・排ガスの技術 腰背部の温罨法 科学的分析. 川島みどり・菱沼典子編. 看護技術の科学と検証 日常ケアの根拠を明らかにする (第1版). 14-23. 日本看護協会出版会.
- 菱沼典子, 平松則子, 春日美香子, 他 (1997b). 熱布による腰背部温罨法が腸音に及ぼす影響. 日本看護科学学会誌, 17 (1), 32-39.
- 菱沼典子, 香春知永, 横山美樹, 他 (2000). 熱布による腰背部温罨法の排ガス・排便に対する臨床効果. 聖路加看護学会誌, 4 (1), 30-35.
- 菱沼典子 (2006). 食欲不振・不眠・便秘は病者の“三種の神器”. 看護学雑誌, 70 (1), 32-37.
- 菱沼典子 (2007). 温めるケアを看護技術として確立するために. ナンゲトクティ, 22 (2), 18-20.
- 菱沼典子 (2009). 研究による経験知の実証—筋が通った看護技術を確立するために—. 日本看護技術学会誌, 8 (3), 4-9.
- 菱沼典子, 山崎好美, 井垣通人 (2010). 腰部温罨法の便秘の症状緩和への効果. 日本看護技術学会誌, 9 (3), 4-10.
- 藤田直子, 山勢博彰, 田戸朝美 (2010). 頸部温罨法が与えるリラクゼーション効果. 日本看護技術学会第9回学術集会講演抄録集, 95.
- 深田順子, 鎌倉やよい, 日比野友子, 他 (2007). 背部温罨法の温度の相違による効果の検討. 日本看護研究学会雑誌, 30 (4), 75-83.
- 細野恵子, 岩元純 (2007). 温熱シートによる長時間温罨法が若年女性の便秘症状に及ぼす影響. 名寄市立大学紀要, 1, 31-34.
- Hosono, T., Takashima, Y. & Morita, Y., et al. (2010). Effect of a heat-and steam-generating sheet on relieving symptoms of primary dysmenorrhea in young women. THE JOURNAL OF Obstetrics and Gynaecology Research, 36 (4), 818-824.
- 深井喜代子, 阪本みどり, 田中美穂 (1996). 水又は運動負荷と温罨法の健康女性の腸音に及ぼす影響. 川崎医療福祉学会誌, 6 (1), 99-106.

- 深井喜代子 (2002). 新体系看護学第 18 巻 基礎看護学 3 基礎看護技術 (第 1 版). 278-282. メヂカルフレンド社.
- 深沢太香子, 柊原裕 (2009). コルチゾールとアミラーゼ活性を指標とした局所と全身の温熱的快適性評価. デサントスポーツ科学, 30, 87-95.
- 井垣通人, 永嶋義直, 山崎好美, 他 (2009). 便通不調のある中高年女性の蒸気温熱シートの腰部適用による症状緩和. 日本看護技術学会誌, 8 (2), 29-36.
- 飯田朋美, 古川恵子, 松本和美, 他 (2003). 長期臥床患者の自然排便への援助. 浜松労災病院学術年報, 2002, 138-140.
- 井上幸子, 平山朝子, 金子道子 (2005). 看護学大系第 8 巻 看護の方法 3 (第 3 版). 135-139. 日本看護協会出版会.
- 入来正躬 (1981). 体温調節機構. 中山昭雄編. 温熱生理学第一版. p. 221. 理工学社.
- 入来正躬 (1989). 特集サーモロジー 体表面温度生理学. BME, 3 (7), 9-15.
- 入来正躬 (2003). 体温生理学テキスト わかりやすい体温のおはなし (初版). 文光堂. 108.
- 岩崎眞弓, 野村志保子 (2005). 局所温罨法によるリラクゼーション効果の検討. 日本看護研究学会雑誌, 28 (1), 33-43.
- 井澤里香, 坂本一朗, 井垣通人, 他 (2005). 家庭用温熱医療機器試験品 (PCH-SS) による蒸気温熱適用の慢性腰痛症に及ぼす効果. ペインクリニック, 26 (8), 1128-1132.
- Jadad, A. R. (1998). ランダム化比較試験 100 の questions に学ぶ. 舟喜光一・津谷喜一郎訳 (2004). じほう. 22.
- 加茂清美, 吉田多重子, 杉本有里 (2006). 足部温罨法が腸蠕動に及ぼす影響 温罨法と足浴の比較検討より. 日本看護学会論文集. 看護総合, 37, 179-181.
- 加藤京里 (2010a). 腰背部温罨法の快の性質—負荷からの回復過程における快不快と自律神経活動の変化から—. 日本看護技術学会誌, 9 (2), 4-13.
- 加藤京里 (2010b). 後頸部温罨法による自律神経活動と快 - 不快の変化—更年期女性 3 事例からの検討—. 日本健康医学会雑誌, 19 (2), 64-69.
- 加藤京里 (2011). 後頸部温罨法による自律神経活動と快—不快の変化 40℃と 60℃の比較. 日本看護研究学会誌, 34 (2), 39-48.
- 河内伸浩, 岩瀬敏, 高田宗樹, 他 (2002). 腹部温罨法が便秘を訴える若年女性の胃電図に及ぼす影響. 自律神経, 39, 433-437.
- 君島康昭 (2007). 上級者への道. 豊田秀樹. 共分散構造分析[Amos 編]. 32-33. 東京図書.

- 木下彩子, 酒井志保, 佐藤美恵子, 他 (2005). 電法の部位による腸管の蠕動促進効果の比較 腹部温電法と腰背部温電法. 日本看護学会論文集看護教育, 36, 42-44.
- Kolcaba, K. Y. (2003). コルカバ コンフォート理論 理論の開発過程と実践への適用. 太田喜久子監訳 (2008). 医学書院.
- 小山嵩夫 (1993). 更年期閉経外来 更年期から老年期の婦人の健康管理について. 日本医師会雑誌, 109 (2), 259-264.
- Kräuchi, K., Cajochen, C. & Werth, E., et al. (2000). Functional link between distal vasodilatation and sleep-onset latency?. The American Journal of Physiology, 278, 741-748.
- Kräuchi, K., Gasio, P. O. & Vollenweider, S., et al. (2008). Cold extremities and difficulties initiating sleep. Evidence of co-morbidity from a random sample of a Swiss urban population. The Journal of Sleep Research, 17, 420-426.
- 斑目健夫, 川嶋朗 (2007). 湯たんぽによる冷えの改善はどのような症状を軽減させるのか. 治療, (1), 181-184.
- 松本珠希, 後山尚久, 木村哲也, 他 (2007). 自律神経活動から評価した更年期外来における心理療法の臨床効果. 日本更年期医学会雑誌, 15 (1), 135-145.
- 松尾太加志, 中村知靖 (2004). 誰も教えてくれなかった因子分析. 北大路書房. 38.
- 松浦康之, 岩瀬敏, 高田宗樹, 他 (2003). 連続腹部温電法が便秘を主訴とする若年女性の胃電図に及ぼす影響. 自律神経, 40 (4), 406-411.
- Matthews, G., Jones, D. M. & Chamberlain, A. G. (1990). Refining the measurement of mood-The UWIST Mood Adjective Checklist-. British Journal of Psychology, 81, 17-42.
- McCulloch, J. & Knight, C. A. (2002). Noncontact normothermic wound therapy and offloading in the treatment of neuropathic foot ulcers in patients with diabetes. Ostomy / Wound Management, 48 (3), 38-44.
- McEwen, B. S. & Lasley, E. N. (2002). ストレスに負けない脳 心と体を癒すしくみを探る. 星恵子 (2004). 早川書房. 16-17.
- 宮崎章夫, 畑山俊輝 (2000). 快場面のイメージによる悲しみの解消ー主観的, 生理的反応の解析ー. 心理学研究, 71 (4), 351-357.
- 門地里絵, 鈴木直人 (1998). 緊張解消過程における主観的情動変化. 健康心理学研究, 11,

57-63.

Nagai, M., Wada, M. & Kobayashi, Y., et al. (2003). Effects of Lumbar Skin Warming on Gastric Motility and Blood Pressure in Humans. Japanese Journal of Physiology, 53, 45-51.

永坂鉄夫 (1990). 動静脈吻合による皮膚での熱移動の調節. 日本生理誌, 52, 197 - 205.

Nagashima, Y., Oda, H. & Igaki, M., et al. (2006). Application of heat-and steam-generating sheets to the lumbar or abdominal region affects autonomic nerve activity. Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical, 126-127, p68-71.

永嶋義直, 井垣直人, 矢田幸博, 他 (2006). 両眼への蒸気温熱シート装着による自律神経活動への影響. 自律神経, 43 (3), 260-268.

Nagashima, Y., Igaki, M. & Suzuki, A., et al. (2011). Application of a Heat-and Steam-Generation Sheet Increases Peripheral Blood Flow and Induces Parasympathetic Predominance. Evidence-Based Complementary and Aiternative Medicine, Article ID 965095, 1-13.

中納美智保, 水田真由美, 松下直子, 他 (2008). 後頸部温罨法が深部温・四肢末梢表面温度・肩部の筋硬度に及ぼす影響. 日本看護学会論文集看護教育, 39 号, 439 - 441.

中納美智保, 山根木貴美代, 松下直子, 他 (2009). 後頸部温罨法による生体反応についての基礎的研究ー脳血流、血圧、体温の変化ー. 和歌山県立医科大学保健看護学部紀要, 第 5 巻, 9-15.

中納美智保, 辻幸代, 松下直子, 他 (2010). 末梢の冷えを自覚している成人女性への後頸部への湿性皮膚温の効果. 関西医療大学紀要, 4, 47-53.

縄秀志 (2002). 婦人科外科患者における背部温罨法ケアの気分、痛み、自律神経活動への影響. 日本看護技術学会誌 1 (1), 36-44.

縄秀志, 花村由紀, 片桐志津子, 他 (2004). 夜勤明け看護師における背部温罨法ケアの気分および自律神経活動への影響. 長野県看護大学紀要, 6, 11-18.

縄秀志 (2006a). 看護実践における“Comfort”の概念分析. 日本看護技術学会誌, 10 (1), 11-22.

縄秀志 (2006 b). 術後患者の回復過程における腰背部温罨法ケアモデルの構築. 日本看護技術学会誌, 5 (2), 12-20.

縄秀志 (2008). 看護現象における「気持ちいい」は概念化が可能か?. EBNURSING, 8 (4),

20-26.

縄秀志 (2009). 術後患者に“Comfort”をもたらす腰背部温罨法ケアの効果. 2009 年度聖路加看護大学大学院博士論文.

Nightingale, F. (1860). 看護覚え書—看護であること・看護でないこと—. 湯楨ます, 井上坦子, 小玉香津子, 他 (2000). 現代社. 14-15.

納城隆一, 井垣通人, 留畑寿美江, 他 (2008). 蒸気温熱シートによる高齢者の排泄機能と QOL 改善効果. 臨床体温, 26 (1), 32-37.

大原孝吉 (1981). 皮膚温. 中山昭雄編. 温熱生理学. 理工学社. 10-17.

大橋俊夫 (2003). 自律神経反射: 発汗・皮膚血管系. 日本自律神経学会編. 自律神経機能検査 (第 3 版). 文光堂. 25-29.

大河内浩人, 杉若弘子 (1995). バイオフィードバックによる皮膚温上昇訓練初期の皮膚温下降. 心理学研究, 66 (1), 48-51.

小田英志, 井垣通人, 宇賀神徹, 他 (2006). 蒸気温熱シートによる腰部加温が体温調節反応と感覚に及ぼす効果. 日本生気象学会雑誌, 43 (1), 43-50.

Oda, H., Igaki, M. & Ugajin, T., et al. (2006). Effects of warming the lower back with a heat and steam generating sheet on thermoregulatory responses and sensation. Jpn. J. Biometeor., 43 (1), 43-50.

小川徳雄 (1981). 蒸発性熱放散. 中山昭雄編. 温熱生理学. 理工学社. 135-166.

落合龍史 (2001). 温熱刺激が脳波および自律神経に及ぼす影響. 自律神経, 38, 450-454.

大塚進 (1995). 冷却負荷サーモグラフィー検査による更年期不定愁訴婦人の末梢皮膚交感神経機能の評価. 日本産科婦人科学会雑誌, 47 (1), 49-54.

Polit, D. F., Beck, C. T. (2004). 看護研究 原理と方法. 近藤潤子監訳 (第 2 版). 医学書院.

Robinson, C. & Santilli, S. M. (1998). Warm-Up Active Wound Therapy. a novel approach to the management of chronic venous stasis ulcers. Journal of Vascular Nursing, 16 (2), 38-42.

Russell, J. A. (1980). A Circumplex Model of Affect. Journal of Personality and Social Psychology, 39 (6), 1161-1178.

Russell, J. A., Weiss, A. & Mendelsohn, G. A. (1989). Affect Grid-A Single Item Scale of Pleasure and Arousal-. Journal of Personality and Social Psychology,

57 (3), 493-502.

酒井美香, 田中亜由美, 河野洋子 (1998). 虚血性心疾患患者の排便コントロール—腰部温罨法の有効性—. 日本看護学会論文集成人看護 I, 29, 76-78.

櫻井利江 (2002). ベッドレスト下における日常生活援助場面での患者の自律神経活動の変化. 第 22 回日本看護科学学会学術集会講演集, 451.

佐居由美 (2008). 看護師が実践している「安楽」モデルの検証. ヒューマン・ケア研究, 9, 30-42.

Seto, H., Ikeda, H. & Hisaoka, H., et al. (2008). Effect of heat-and steam-generating sheet on daily activities of living in patients with osteoarthritis of the knee : randomized prospective study. journal of ORTHOPAEDIC SCIENCE, 13, 187-191.

清水祐樹, 佐藤麻紀, 犬飼洋子, 他 (2006). 睡眠時における腹部温罨法が若年女性の胃電図に及ぼす影響. 自律神経, 43 (6), 471-477.

白澤早苗, 石田多由美, 箱田裕司, 他 (1999). 記憶検索に及ぼすエネルギー覚醒の効果. 基礎心理学研究, 17 (2), 93-99.

Stephen, B. H., Steven, R. C. & Warren, S. B., et al. (2007). 医学的研究のデザイン研究の質を高める疫学的アプローチ. 木原雅子, 木原正博 (2009). メディカル・サイエンス・インターナショナル. 87.

杉江征 (1991). 末梢皮膚温の変化からみた自律訓練法. 自律訓練研究, 12 (1-2). 16-24.

須郷磨衣子, 渡部一郎, 長門五城 (2010). 片側頸部温熱療法が局所・全身性の交感神経機能に与える影響. Biomedical Thermology, 29 (2), 26-32.

瀧澤琴美, 鈴木美紀, 一條久美, 他 (2000). 慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸困難に対する腰方形筋への温罨法の効果. 日本看護学会論文集成人看護 II, 31, 256-257.

田部井明美 (2006). SPSS 完全活用法 共分散構造分析 (AMOS) によるアンケート処理 (初版). 東京図書. 22-47.

丹後俊郎 (2008). 医学統計学シリーズ 5 無作為化比較試験 デザインと統計解析. 朝倉書店. p. 164.

豊田秀樹 (2002). 「討論: 共分散構造分析」の特集にあたって. 行動計量学, 29 (2), 135-137.

豊田秀樹 (2003). 統計ライブラリー 共分散構造分析 疑問編 構造方程式モデリング (初版). 朝倉書店. 144-145.

豊田秀樹 (2007). 共分散構造分析 (AMOS 編). 東京図書. 1-23.

- 豊田久美子 (2006). 足浴が排尿に与える影響に関する研究. 人間看護学研究, 3, 51-61.
- 塚越みどり, 菱沼典子 (1999). 熱布による背部温電法が自律神経活動、背部皮膚温に及ぼす影響. 聖路加看護学会誌, 3 (1), 11-18.
- 椿広計 (2008). 検定に基づいた決定と多重性. 椿広計, 佐藤俊哉, 藤田利治編. これからの臨床試験 医薬品の科学的評価—原理と方法. 67-79. 朝倉書店.
- 薄井坦子 (2003). 系統看護学講座専門2 基礎看護学2. 医学書院. 244-245.
- 渡部一郎, 岸直也 (2008). 脳卒中肩手症候群の肩・頸部温熱療法による交感神経ブロック様作用. Biomedical Thermology, 27 (2), 45-49.
- 渡部一郎, 下山諭史, 勘林秀行, 他 (2011). 肩手症候群を呈する脳卒中患者に対する頸腕部温熱療法と上下肢運動療法が交感神経機能に与える影響. Biomedical Thermology, 30 (2), 35-40.
- 山本由華吏, 田中秀樹, 高瀬美紀, 他 (1999). 中高年・高齢者を対象とした OSA 睡眠感調査票 (MA 版) の開発と標準化. 脳と精神の医学, 10, 401-409.
- 山下恵 (2011) 背部温電法が産褥早期の初産婦の気分に及ぼす効果. 日本母性看護学会誌, 11 (1), 73-79.
- 矢野理香, 石本政恵, 品地智子, 他 (2009). 脳血管障害患者における手浴—7 事例の検討を通して—. 日本看護技術学会誌, 8 (3), 101-108.
- 矢野祐美子, 松邨敦代, 阿曾洋子 (2004). 看護に関する実験研究での測定機器をめぐる問題. 看護研究, 37 (1), 21-26.
- Yasui, H., Takamoto, K. & Hori, E., et al. (2010). Significant correlation between autonomic nervous activity and cerebral hemodynamics during thermotherapy on the neck. Autonomic Neuroscience : Basic and Clinical, 156, 96-103.
- 安富香苗, 工藤せい子, 石岡薫, 他 (2009). 手浴が上下肢皮膚温・深部温と心理面に及ぼす影響. 看護技術, 55 (9), 92-98.
- 吉永亜子, 吉本照子 (2005). 睡眠を促す援助としての足浴についての文献検討. 日本看護技術学会誌, 4 (2), 4-13.
- 吉永亜子, 吉本照子 (2007). 足浴が頭痛を緩和する看護技術から睡眠を促す技術へと進展した背景要因. 日本看護技術学会誌, 6 (1), 70-77.
- 納城隆一, 井垣通人, 留畑寿美江, 他 (2008). 蒸気温熱シートによる高齢者の排泄機能と QOL 改善効果. 臨床体温, 26 (1), 32-37.